

景観チェックリスト

◎…具体的配慮の記入必須事項

1. 公共事業に共通の設備等に關し留意すべき事項		
	共通要素（個別事項）	具体的配慮 記入
法面	<p><基本方針></p> <p>できる限り緩やかな勾配とし、在来種による緑化を施す等により原地形や既存植生になじませる。</p> <p><具体的方向></p> <p>①原地形との調和</p> <p>■ 法面は、できる限り統一した植生工による表面処理と原地形への取付けの工夫により、違和感のないものとする。</p> <p>□ 法尻、法肩部に季節感を考慮した低木や花木などの植栽を行う。</p> <p>◎ 法面は緑化可能な勾配とし、必要最小限の規模となるように計画する。</p> <p>②緑化の方法</p> <p>■ 表土の復元などにより、法面に既存植生を回復させる。</p> <p>□ 植生タイプを統一することにより、周辺植生と調和させる。</p> <p>□ 視覚的な連続性を高めるため、周辺とのコントラストを考慮した植栽構成とする。</p> <p>□ 既存樹木をできる限り多く残すことにより既存植生と調和させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県道の線形 町道との交差部（NO.7付近）における県道の線形は、普通自動車（大型バス）の走行軌跡から決まる必要最小限の位置として、切土の最小化に努めている。 ・県道の切土法面 岩盤部（1段目・2段目） <ul style="list-style-type: none"> → 植生マット工（無播種）を採用し、地域植生の回復を図る。勾配1:0.8 土砂部（3断面・4段目） <ul style="list-style-type: none"> → 森林表土利用工等を採用し、地域植生の回復を図る。勾配1:1.1 ・橋台部の切土法面（A2左側） <ul style="list-style-type: none"> 勾配1:1.0を確保し、植生マット工（無播種・自然侵入促進型）を計画する。 <p>※自然侵入促進型 飛来種子の捕捉しやすい製品を使用し、周辺植物の侵入を促すタイプ</p>
擁壁	<p><基本方針></p> <p>自然素材（木、石等）を利用し、緑化などとの併用により、周辺景観になじませる。</p> <p><具体的方向></p> <p>①周辺景観との調和</p> <p>□ 緑化ブロックを使用し、植栽で周辺と調和させる。</p> <p>■ 自然石、地場産素材の活用、植栽の併用を複合的に取り入れる。</p> <p>◎ 擁壁は周辺の景観と調和した形態及び素材とし、必要最小限の規模となるよう計画する。</p> <p>②緑化の方法</p> <p>□ つる性植物による緑化により擁壁面を被覆し、構造物による違和感を軽減する。</p> <p>■ 擁壁前面に植栽スペースを設置し、壁面を遮へいすることで、圧迫感を低減する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A1 橋台右側 現地の石積で使用されていた石材を再利用し、多段石積とする。 ・A1 橋台左側 安全性の観点から石積が困難であるため、緑化が可能なジオテキスタイル補強土擁壁（ジオセル壁面材仕様）とする。 ・A2 橋台の右側 緑化が可能なジオテキスタイル

	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 擁壁の天端に植栽することで構造物が与えやすい周辺への違和感を和らげる。 	<p>補強土擁壁（ジオセル壁面材仕様）と重力式擁壁の多段構造とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋台部の盛土法面（A2 左側）現況相当の勾配 1:1.2 を確保し、張ブロックを計画する。
防護柵	<p><基本方針></p> <p>認知されやすい施設であり、周辺景観の阻害要因となりやすい。視野の確保、美観の向上を考慮した上で、構造、形態、意匠、色彩に配慮し、周辺景観になじませ、地域特性の創出を図る。</p> <p><具体的な方向></p> <ul style="list-style-type: none"> ①周辺景観との調和 <ul style="list-style-type: none"> ■ 眺望をできる限り遮らず、透過性の良い構造とする。 □ 周辺と同化するような色彩とし、植栽を併用するなどして周辺景観となじませる。 ②地域特性の演出 <ul style="list-style-type: none"> □ 地域の自然素材（石、木材等）を利用するなど、周辺景観になじませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道側（海側）は、眺望性やシンプルな構造を意識した景観配慮型高欄兼用車両防護柵とする。なお、色彩については現地の既設防護柵に使用されているダークブラウンを予定している。 ・車道側（山側）は、安全性の観点からコンクリート製の壁高欄（無彩色）とする。 ・車道側、歩道側ともに投下物防止柵を設置する必要がある。色彩は車両防護柵と統一し、ダークブラウンを予定している。
舗装	<p><基本方針></p> <p>視点位置によっては景観に大きく影響を与えるため、色彩や素材について特に配慮し、周辺景観になじませる。必要に応じて地域特性により個性の演出を図る。</p> <p><具体的な方向></p> <ul style="list-style-type: none"> ①周辺景観との調和 <ul style="list-style-type: none"> ■ 歩道、自転車道の舗装は、必要に応じて素材、色彩を考慮し、強調するなど景観に変化をつける。 ②個性の演出 <ul style="list-style-type: none"> □ 自然景勝地では、自然素材等を活用し、自然景観になじませ、周辺景観を引き立たせる。 □ 市街地では、車道部と歩道部を区分した色彩変化などにより、周辺景観に考慮しつつ個性を演出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前後の道路舗装や既存舗装と整合を図り、アスファルト舗装（無彩色）とする。

維持管理	<p><基本方針></p> <p>施設、植栽の維持管理については、計画的な修繕、補修、手入れを行い、地域景観に調和した形態、意匠、生態を維持する。</p> <hr/> <p><具体的方向></p> <p>①施設の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 施設の維持管理は、老朽化時期の違いなどから単独で行われることが多い。周辺景観に調和させ、部分的な不統一感を生じさせないよう、ある程度の計画性を持って、素材、色彩等ができる限り統一する。 <p>②植栽の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 育成、維持、更新の各段階でそれぞれ必要となる管理行為を着実に行い、長期的、定期的、安定的な維持管理を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化に配慮した橋梁付属物の素材を選定しており、塩害に伴う発錆が生じ難い素材を採用することで景観への配慮を行っている。 <p>高欄兼用車両防護柵 → アルミ合金製 投下物防止柵 → アルミ合金製 鋼製排水溝 → ステンレス製 (SUS821) ※SUS821は高耐久・高強度の二相ステンレス鋼素材である。</p> <p>検査路 → アルミ合金製</p>
------	---	--

2. 公共事業の種類に応じて特に留意すべき事項

施設別要素	
橋梁	<p>橋梁は、人や車の通行という機能的な役割だけでなく、それ自体が地域の象徴となりうるものであり、周辺景観の眺望点としても重要な施設である。</p> <p>橋梁の整備に当たっては、優れた景観要素となりうる特性を活かし、地域の環境、歴史、文化と調和させる。</p>
	<p>橋梁本体</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 橋梁本体自体が優良な景観資源となることを考慮し、構造、素材、色彩等は周辺景観と調和し違和感のないものとする。 □ 歴史的、伝統的な雰囲気を醸し出している地域における構造等の選定に当たっては、歴史や伝統を考慮し、それらと調和のとれたものとする。
	<p>橋梁付属物</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 高欄、照明施設等の付属物については、橋梁本体との調和を考慮し、橋梁全体で周辺の景観と調和するように形態、素材等を決定する。 ■ 排水管等の付属物について、形態、意匠、色彩等を工夫し、本体との調和を図る。
	<p>高架橋、歩道橋</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 橋桁、橋脚に曲線処理等を行うことで構造物の圧迫感を軽減する。

備考 「2. 公共事業の種類に応じて特に留意すべき事項」については、該当する施設部分のみを記載し、その他の部分は削除すること。